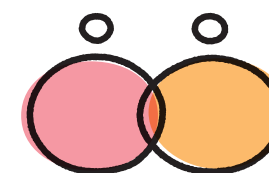


賛同企業
募集
企画書



今できること
プロジェクト

2022-2023

復興から伝承へ

命を守る教訓をつなぎ
確かな地域再生の脈動を。

お申し込み・お問い合わせ



河北新報社

●営業局営業部

〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-211-1318 FAX 022-227-0923

●東京支社営業部

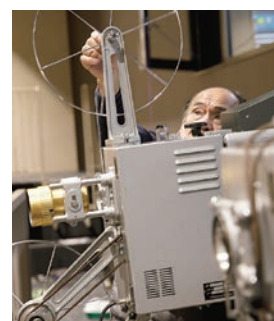
〒105-0004 東京都港区新橋5-13-1新橋菊栄ビル7F
TEL 03-6435-8401 FAX 03-6435-8406

●大阪支社営業部

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-23
TEL 06-6227-1051 FAX 06-6227-1060

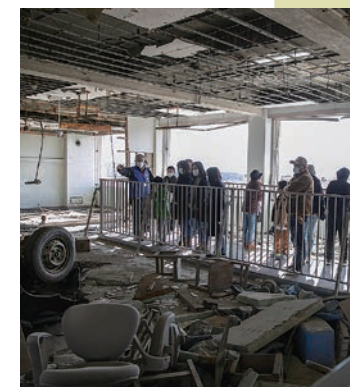


地域の未来のために 河北新報社が考える 読者参加型プログラムで、 たゆみのない歩みを 応援するプロジェクト。



東日本大震災から真の復興を果たすため、「今、私たちにできることはなんだろう?」という真摯な問いかけから震災翌年にこのプロジェクトがスタート。これまでたくさんの読者や賛同企業の皆さまに参加・協力をいただきながら、宮城県内各地で幅広い活動を展開してきました。そして、発災から時が経過し、状況が変わるなかで新たな針路を定め、取り組みを発展させてきました。

今年度は、県域を拡大し、新たな視点を加味した活動を展開して多くの参加者を募ってまいります。そのためには、本プロジェクトの理念に賛同いただく企業のご協力が必要不可欠です。地域の未来を後押しする志をともに共有し、篤いご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。



これまでの詳しい活動の記録は
こちらからご覧いただけます。

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>



1

親子で学ぶ防災学習支援



海を体感する喜びと防災の知恵を得る体験学習。

海とともにあった暮らしを一変させた津波は物理的なダメージにとどまらず、地域の人々の心にも大きな傷を残しました。災禍を目の当たりにした子どもたちはもちろん、大人も慣れ親しんでいたはずの故郷の海を忌避する生活や行動をとるようになってしまいました。

震災直後の3月19日からボランティアとして現地に入り、その後、漁師になって気仙沼市本吉町大谷地区に移住した笠原一城さんは、「このまま海に近づかない暮らしをしていいのか」とボランティア仲間へ提言。共感したメンバーと一緒に震災から2年後、NPO法人「浜わらす」を発足させました。

本プロジェクトでは、“ここは津波が来たまち。海へ行こう”を活動のテーマに掲げている「浜わらす」を訪問し、親子で海の恵みと豊かさを体感するアウトドア体験型の防災学習プログラムを実施します。まず、「浜わらす」に活動場所を提供している寺院「清凉院」を訪ね、震災時に避難所として被災住民を受け入れたエピソードを住職に語っていただきます。その後、ジェルキャンドルや保存食としても活用できるふりかけを作るワークショップ、ポリ袋を活用したたき火炊飯など、災害時に役立つ体験学習も予定しています。

企画展開
スケジュール
(予定)

2022年10月上旬	参加募集スタート
2022年10月下旬	一般参加者による活動実施
2022年12月上旬	イベント採録紙面掲載

賛同企業様へ 賛同企業様からの参加も歓迎

親子で学ぶ防災学習支援活動に賛同し、親子でアウトドア体験型の防災学習プログラムに参加いただける賛同企業の参加者を募集いたします。

特定非営利活動法人 浜わらす

東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた気仙沼市本吉町大谷地区で、2013年7月に発足。名前の由来は、気仙沼・東北の方言で浜の「わらす=子ども」から。子どもたちに自然の中での体験を通じて生き抜く力を学ぶ機会を提供するため、自然体験活動や地域連携活動、環境保全活動、小学校での出前授業など多彩な取り組みを展開しています。

<https://hamawarasu.org/>

2

福島県相双エリアの再生発信支援

賛同企業の
参加を募集

故郷に確かな未来を描ける真の再生を目指して。

福島県沿岸中部以北の“浜通り地方”12市町村を指す「相双地域」。東日本大震災では地震・津波・原発事故の複合災害に見舞われ、同じ被災県でハード面の復旧が進んだ宮城とは異なる様相を見せています。

このツアーでは、福島の“今”と向き合い、未来を展望する人々や団体に学びます。国主導の下、相双地域に新たな産業基盤を構築する「福島イノベーション・コースト構想」について、(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構の担当者からお話をお聞きし、関連施設を視察する予定です。全壊したヤナ場を再建し、2011年秋以降も事業を存続させた南相馬市「真野川鮭増殖組合」を訪ね、漁期を迎えた孵化場で採卵作業を見学。浪江町「請戸(うけど)漁港」では、自主検査に厳しい独自基準を設け、国際基準に照らして安全性が十分に担保されている福島の水産業の現状について知ります。潮目がもたらす良質な海産物「常磐もの」の中でも、市場のプロから高い評価を得ている「請戸もの」。その現場を支えているのは、避難先の相馬や南相馬から災害危険区域に指定された郷里・請戸に通い、漁船に乗り込む女性たちを含む漁師です。浪江町の担当者から漁の再開に至る歩みと展望を語っていただく予定です。

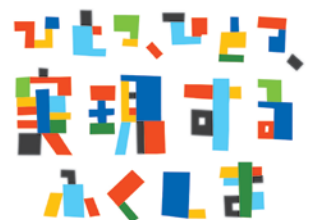
企画展開
スケジュール
(予定)

2022年10月上旬	賛同企業優先枠募集スタート
2022年11月中旬	賛同企業・一般参加者による活動実施
2022年12月中旬	視察ツアー採録紙面掲載

福島イノベーション・コースト構想

東日本大震災、原子力災害によって失われた浜通り地域の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト。企業の誘致やマッチング、イノベーション関連開発の事業化支援、教育・人材育成、視察ツアーの受け入れなどを行っています。

<https://www.fipo.or.jp/>



今度「Fukushima Inno-Bay」プロジェクト2022 | 2023年展開案

そして、これから、ともに。

今度「Fukushima Inno-Bay」プロジェクト2022 | 2023年展開案

3

石巻市追波湾の資源活用支援



震災遺構と新たな観光施設で知る石巻の未来図。

大津波によってかつての街並みを失った石巻市旧北上川河口の南浜・門脇エリアには災害公営住宅が建ち並び、国や県などが整備した復興祈念公園も造られましたが、旧門脇小学校は今も被災当時の生々しい傷跡を残しています。

津波火災で被災して閉校となり、2022年春から「石巻市震災遺構門脇小学校」として一般公開されています。当ツアーでは、火災による消失面積が大きく、他の震災遺構とは性質が異なるため、高台への垂直避難だけでなく水平避難の重要性を知ることができます。参加者には、震災疑似体験プログラムまたは避難所設置実地プログラムにチャレンジしてもらう予定です。

その後、復興住宅をリノベーションした同市北上町の高台にある宿泊施設「追波湾（おっぱわん）テラス」を訪ねます。企画経営に携わる鷹野秀征さんの講話に耳を傾けた後、施設内を見学する予定です。

企画展開
スケジュール
（予定）

2022年12月下旬 参加募集スタート
2023年2月上旬 一般参加者による活動実施
2023年3月上旬 イベント採録紙面掲載

賛同企業様へ 賛同企業様からの参加も歓迎

石巻追波湾の資源活用支援に賛同し、石巻市震災遺構門脇小学校と追波湾テラスを巡るツアーに参加いただける賛同企業の参加者を募集いたします。

石巻市震災遺構 門脇小学校

津波による破壊とその後発生した火災で大きな被害を受けた旧門脇小を、震災遺構として一般公開。石巻における震災の事象と教訓を後世に受け継ぐことを目的に、命を守る避難行動や平時における訓練の重要性、地域を知ることの大切さを伝えています。

<https://www.city.ishinomaki.lg.jp/ruins/index.html>

追波湾テラス

東京・工学院大学の復興支援事業「恒久復興住宅プロジェクト(K-engine Project)」で生まれた白浜復興住宅がその役目を終え、ペットと泊まれる宿泊施設にリノベーション。眼前に美しい海を望む絶好のロケーションに10の宿泊棟を展開しています。

<https://oppawan-terrace.jp/>

今度ARNDIプロジェクト2022―2023展開案

そして、これから、ともに。

4

次世代被災地視察教育支援



中学生たちが被災地で得た教訓をレポート。

東日本大震災の発生から長い年月が経過し、当時の記憶が失われつつあります。中学生以下の年代になると、全く記憶が無いというケースも少なくありません。来たるべき大災害から一人でも多くの命を守るためには、記憶の風化を防ぎ、若い世代へ教訓を継承していくことが必要不可欠です。教訓の若き担い手である中学生たちに、宮城県内各地の被災地を視察してもらい、十代の目線から震災の事実と向き合う機会を創出する取り組みをこれまで2回実施しましたが、いずれも大いに反響を集めました。

事前にオリエンテーションを行い、十分な予備知識を備えて被災地を訪問。現地の語り部や追悼施設、震災遺構、復興めざましい地域などで学びを深めながら、肌で感じて実感を得る視察を実施します。その後、ワークショップでそれぞれの考えをまとめ、中学生自身が伝えたい東日本大震災についての記事を作成してもらいます。それをまとめた特集紙面「中学生震災伝承新聞」を、宮城県内外の中学生や各施設へ配布します。

参加予定の中学校

- 名取市立関上小中学校
- 多賀城市立東豊中学校
- 仙台市立八乙女中学校

視察予定の被災地

- 東松島市
- 石巻市・女川町
- 亘理町

企画展開
スケジュール
（予定）

2022年9月～10月 被災地視察
2023年2月中旬 特集紙面発行



今度ARNDIプロジェクト2022―2023展開案

紙面展開

プロジェクト掲載紙面

- 2022年9月30日から
- 朝刊カラー全15段、全5段 など

プロジェクト掲載紙面

- 2022年9月30日から
- 朝刊カラー全15段、全5段 など

- # プロジェクト掲載紙面

 - 2022年9月30日から
 - 朝刊カラー全15段、全5段 など

スタート紙面

募集紙面

レポート紙面

スタート紙面

今年から
プロジェクト

復興も未来へ

地域の未来を拓くその一歩にエールを。

東日本大震災から5年が経ち、いまだ復興作業は途絶えぬ被災地。被災地を支援する企業は、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、企業と被災地の関係性を築いていく。被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。

① 親子で学ぶ防災学習支援

東日本大震災から5年が経ち、いまだ復興作業は途絶えぬ被災地。被災地を支援する企業は、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。

② 新たな特産品発信支援

被災地を支援する企業は、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。

③ 石巻復興地帯地帯

東日本大震災から5年が経ち、いまだ復興作業は途絶えぬ被災地。被災地を支援する企業は、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。

④ 次世代の福祉視察視察学習支援

被災地を支援する企業は、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。

宮城の復興のために新時代に貢献が考えられる復興支援プロジェクトは、地域の可能性を高める重要な一歩。

東日本大震災から5年が経ち、いまだ復興作業は途絶えぬ被災地。被災地を支援する企業は、被災地の復興を待ち望んでいます。このプロジェクトでは、そんな被災地を支援する企業を支援し、被災地の復興を待ち望んでいます。

私たちも、復興のためにできることをしたい。このプロジェクトに参加して、被災地の復興を待ち望んでいます。

賛同企業名

※昨年度の紙面です。

[illegible][illegible]

プロジェクト告知(4社連合) 原寸

- 2022年10月～2023年3月まで
- 朝刊カラー全1段(タテ32mm×ヨコ381mm)

- # プロジェクト告知(4社連合) 原寸
- 2022年10月～2023年3月まで
 - 朝刊カラー全1段(タテ32mm×ヨコ381mm)

賛同企業
ロゴを月1回
掲出

小さな支援も集まれば大きな力となります。ひとりでも多くの人が被災地支援のアクションを起こすために、企業・団体と市民が一緒になって「自分に今できること」は何かをともに考えていくプロジェクトです。

河北　今できること

検索

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局
河北新報社営業部 tel 022-211-1318

河北 今できること 検索 [お問い合わせ]今できることプロジェクト事務局
 河北新報社営業部 tel 022-211-1318

賛同企業フリースペース 原寸

- 2022年10月～2023年3月まで①、②のいずれかを1回掲載
①記事体広告…被災地支援活動の取材記事(朝刊モノクロ
3段1/2)
※毎月下旬、賛同企業被災支援活動の取材記事として、複数社
とりまとめて掲載します。ご希望の掲載月をご連絡ください。
②ディスプレイ広告…朝刊カラー 4段1/4相当 カット付き
フリースペース
※ご希望の掲載日をお知らせください。

②ディスプレイ広告…カラー4段1/4
賛同企業向けカット付フリースペースとしてご利用いただけます。

◎フリースペースサイズ タテ 110mm×ヨコ 90mm
※完全データにて入稿ください

②ディスプレイ広告…カラー4段1/4
賛同企業向けカット付フリースペースとしてご利用いただけます。

◎フリースペースサイズ タテ 110mm×ヨコ 90mm
※完全データにて入稿ください

②ディスプレイ広告…カラー4段1/4
賛同企業向けカット付フリースペースとしてご利用いただけます。

◎フリースペースサイズ タテ 110mm×ヨコ 90mm
※完全データにて入稿ください

①記事体広告…モノクロ3段1/2

貴社の被災地支援活動に関する取り組みを取材します。

◎写真／2点まで

①記事体広告…モノクロ3段1/2

貴社の被災地支援活動に関する取り組みを取材します。

◎写真／2点まで

①記事体広告…モノクロ3段1/2

貴社の被災地支援活動に関する取り組みを取材します。

◎写真／2点まで

この文章はダミーです。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。

取材協力／○○○○○○○○○○

取材協力／〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

命を守る教訓をつなぎ 確かな地域再生の脈動を。

賛同企業ロゴ

賛同企業ロゴ

賛同企業ロゴ

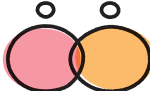
賛同企業ロゴ

賛同企業ロゴ

賛同企業ロゴ

賛同企業ロゴ

賛同企業ロゴ



今できること
プロジェクト
2022-2023
復興から伝承へ

私たちは東北の復興のために
「今できることプロジェクト」に
賛同しています。

[プロジェクトに関するお問い合わせ]今できることプロジェクト事務局／河北新報社営業部 tel 022-211-1318

「今できることプロジェクト」賛同企業の被災地支援活動、復興支援活動などを紹介します。

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局／河北新報社営業部 tel 022-211-1318

この文章はダミーです。
文字サイズや文字間隔の
参考にしてください。この
文章はダミーです。文字サ
イズや文字間隔の参考に
してください。この文章は
ダミーです。文字サイズや
文字間隔の参考にしてく
ださい。この文章はダミー

この文章はダミーですここにはキャプションが入ります

ホームページとSNS

今できることプロジェクト オフィシャルホームページ

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>

河北新報読者だけでなく 広く活動内容を発信



今できることプロジェクト特設webサイトで、新聞読者以外の方々にも取り組みを発信しています。紙面と連動してサイト内に記事や動画を掲出するとともに、紙面を読んだ意見や感想、復興応援メッセージや現在取り組んでいる支援などを紹介。誰でも自由に参加できる広場になっています。



今できることプロジェクト Facebook

<https://www.facebook.com/imadeki/>

記事と連動しながら 賛同者と情報共有



今できることプロジェクト関連の情報や、復興に関わる新聞記事のリンクを随時アップしています。被災地の「いま」を伝えてまいります。



いいね！総数
2,492!

ご賛同料金について

お申し込み締切 2022年9月16日(金)

※プロジェクト期間途中からの参加も可能でございますが、賛同料金については同額になります。

基本プランA

- ①各回特集紙面に企業名表記
- ②毎月1回、朝刊カラー全1段で企業ロゴ掲載
- ③被災地支援活動取材(素材提供も可)し、朝刊記事体モノクロ3段1/2を1回掲載
※被災地支援活動以外の原稿を掲載希望の場合、朝刊カラー4段1/4相当を1回掲載
- ④特設webサイト内で企業ロゴ掲載およびリンク設置
- ⑤親子で学ぶ防災学習支援、福島県相双エリアの再生発信支援、石巻市追波湾の資源活用支援への参加権利(各回2名まで)
- ⑥次世代被災地視察教育支援で中学生が作成した「中学生震災伝承新聞」に企業名表記

300,000円(税別)

新聞広告追加プラン

オプションプランB(カラー全5段)

- プランAの①～⑥に加え、
- ⑦朝刊カラー全5段(税別定価1,985,000円)の掲載(1回)
掲載期間／2022年9月～12月

※ご希望の掲載日をお知らせください。

1,700,000円(税別)

オプションプランC(カラー全15段)

- プランAの①～⑥に加え、
- ⑦朝刊カラー全15段(税別定価4,250,000円)の掲載(1回)
掲載期間／2022年9月～12月

※ご希望の掲載日をお知らせください。

3,600,000円(税別)

東日本大震災発生時からの取り組みをまとめておきたい、新たなフェーズとしてどのような取り組みをしたら良いのか、企業研修として被災地へ訪問を考えたい、など東日本大震災支援関連でのお困りごとなどございましたらご遠慮なく当プロジェクト事務局にお問い合わせください。